

「～ついに今年も冬本番！忘れちゃいけない寒冷対策！～」

暖冬と言われている今年も、ついに雪降る季節が訪れ、寒さが一層身に染みるようになりました。冬支度はすでにお済みでしょうか？何かと忙しいこの季節ですが、できるだけ万全にしたいところです。さて、今回は、「**まだまだできる寒冷対策**」についてお伝えしたいと思います。人も、牛もしっかり冬支度をして、少しでも快適な冬を過ごしましょう。



毎年冬は、寒冷対策を欠かさないよ。カーフジャケットやネックウォーマーの着用、ヒーターの設置やたっぷりの敷料、すきま風もふさいでるよ！完璧だ！

素晴らしい寒冷対策！でも実は…できることは**まだあるんだ！**



寒い時期は「餌の増給」を忘れずに！



黒毛繁殖雌牛は、気温5℃前後を下回ると、体温維持などのためにエネルギーを多く消費するよ。それに伴って、寒冷時はエネルギー要求量が多くなるんだ！（表1）だから、飼料給与量もこれに応じて増やす必要があるんだよ。

表1 黒毛繁殖雌牛（体重500kg）維持期における最低気温範囲別のTDN要求量

最低気温範囲	維持TDNに対する要求量割合
0～-5℃	130%
-5℃～-10℃	150%
-10℃≥	170%

なるほど！見落とししてたなあ。早速、増給量を計算してみよう！



岩手県肉用牛飼養管理マニュアルより



奥州市胆沢では、1月の最低気温が-10℃近くまで下がるよ。今回は牛舎内を想定して、0～-5℃の場合の増給量を考えてみよう！

表2 適温時の繁殖雌牛（体重500kg）維持期の1日1頭当たりの飼料給与例

表3 寒冷時（維持TDNに対する要求量の割合130%）の繁殖雌牛（体重500kg）維持期の1日1頭当たりの飼料給与例 ※摂食量は8%増加（日本飼養標準肉用牛（2022年版）参照）

飼料	給与量 (現物kg)	飼料成分値 (乾物中%)		
		DM	TDN	CP
グラスサイレージ	5.0	65.2	57.9	9.3
稲わら	4.5	87.8	42.9	5.4

飼料	給与量 (現物kg)	飼料成分値 (乾物中%)		
		DM	TDN	CP
グラスサイレージ	5.0	65.2	57.9	9.3
稲わら	4.5	87.8	42.9	5.4
配合飼料	1.2	89.0	70.2	16.3



寒冷時は、維持期で配合を**約1kg増やす**必要があるんだね！…ということは、分娩前や、授乳期の牛はもっと多くの増給が必要になるってこと…？

※グラスサイレージは、令和3年岩手県自給飼料分析結果の平均値、稲わらは日本標準飼料成分表を参照



そのとおり！だから、少しでも寒冷によるエネルギー消費を抑えるために、**分娩房や母子同居区は、特に寒冷対策をしっかりと**行うようにしよう。牛舎の中で、最も陽当たり良好な一等地に配置するといいね！



1 こまめな除糞と換気

すきま風を塞ぎ、保温性を高めた牛房は、**空気がこもりやすい空間**です。糞尿などから発生したアンモニアで、呼吸器病になる可能性があるため、まめな除糞と換気が必要です！



また、冬場は牛床がなかなか乾きません。湿った牛床は、子牛の体温を奪い、免疫機能の低下を招き、下痢などの原因になります。日中の暖かい時間帯に換気を行うなど、保温と換気の両立を工夫しましょう。

2 牛舎を明るく！

みなさんは、**牛舎内で新聞が読めますか？**
発情発見など、牛を観察するには、**牛の後駆付近で人が新聞を読めるくらいの明るさが必要**です。特に冬場は、日照時間が短く、夏場よりも早く牛舎内が暗くなります。また、牛舎内が暗いと、事故などの原因にもつながります。牛も人も快適に過ごすために、**牛舎内を明るく**しませんか？



牛舎内に石灰を塗布したり、照明をLEDライトにするだけでとっても明るい！



《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～
～ 哺育牛の飼養管理「**離乳**」について～ マニュアルのダウンロードはこちら→



離乳はいつから？

90日齢以降を目安にスターターの摂取量や発育、被毛の状況などを踏まえて判断しましょう。

2kg/日以上を安定的に摂取

離乳は大きなストレス

離乳時は、断乳、餌の切り替え、母牛との分離による環境の変化など、多くのストレスが重なり、**採食量や免疫機能の低下で発育が停滞する**恐れがあります。

やってみよう！

スムーズに離乳させるための3ポイント！ 

1 育成用配合飼料に慣らしてから母牛と分離する

→ スターターに育成用配合飼料を混ぜ、2週間程度かけて段階的に切り替え

群を作るときは一気に！
群の中で、子牛の出し入れはなるべくしない。

2 群を移動するときは、できる限り一斉に動かす

＼移動は、みんな一緒に！／

3 子牛ではなく、母牛を移動する



お問い合わせ >>>

奥州農業改良普及センター 0197-35-8451

一関農業改良普及センター 0191-52-4961